

所長あいさつ

所長 三戸 延聖

子どもの創造力を引き出す教師の魅力はどのようにして磨かれるか

かつて読んだ『中等教育資料』で文部科学省の西辻正副調査官（当時）が巻頭言に寄稿された記事が忘れられない。

「学び」はいつの時代にも先に在る者から後に続く者へと教えられることで成り立つように思われがちだが、実は後に学ぶ側の主体性はいつも危うい。それは既知である教える側に先行の優位性があるからだ。『礼記』という中国の古典に「記聞(きぶん)の学は、以て人の師と為るに足らず」という一説がある。（学記第十八）記憶暗誦に努めさせ、その成果を求める注入主義的な勉強の在り方には学習者の主体性が失われ、「創造」する力は育たないと説いている。およそ2000年前の書物であるが、人間の営みとして陥りやすい普遍性を問いかけるものとして、今尚その価値は生きている。という内容だったと記憶している。

では、「創造」する力はどうすれば育つのだろうか。子どもの生来の才能を磨くにしても、ただ自主性に任せたままでは、伸びやかな根を張らず、せつかくの芽も幹への成長は難しい。茶道の千利休の教えをまとめた『利休道歌』に「守破離(しゅはり)」という言葉がある。ここでいう師弟と同様に、教師は子どもにどのように学びの基礎を教え見守り、どの段階で型を破らせ、そして子どもの思いのままに離すか、そのバランスとタイミングが「創造」する力を引き出す鍵になりそうだ。ただし、眼目は「離るとても 本を忘るな」という結びにあることも押さえておくことが肝腎だ。

冒頭で紹介した『礼記』では次のような言葉が並ぶ。教師には「道(みちび)きて牽(ひ)かず、強いて抑えず、開きて達せず。（指導はするが牽引しない、激励するが抑圧はしない、開発はするが目標までは連れて行かない）」姿勢が大切だと述べている。ここには学習する側にとって己が牽引させられているという受け身の意識を取り除き、博覧強記(はくらんきょうき)への強迫観念を抱かせないようにする。学ぶ志のある者の心に平安がもたらされることで、自らの頭で目標を探し求めることを説いている。端的にいうと「勉強」から「学習」への転換あるいは昇華である。

ところで、一昨年逝去されたイギリスの教育学者
*ケン・ロビンソン氏の『パワー・オブ・クリエイティビティ』（2018日経BP社）には「今日、年間で推定10の17乗個のICチップが作られ、これが地球上

のアリの数にほぼ等しい」という話題が掲載されている。ロビンソン氏もその実際の真偽は知り得ないと述べているが、いずれにしても「この桁違いの生産量はコンピューターがいかに幅広い範囲で利用されているか」という点で情報の速さと汎用の広さを推測すると、まさに予測困難な時代の本質をついた仮説である。

このような変化の激しい時代を生きていく子どもたちには、先入観にとらわれず失敗に学びながら自らの頭で新たに何かを生み出す創造力こそが、自分の生き方をより豊かにする源泉となることを伝えていきたい。それは単に時代に対応する力ではなく、時代の中で活躍する力になるからだ。一方、先生方には、その仕事の在り方を振り返り、学び合うことが教師という職業の持つもう一つの醍醐味であることを今一度伝えたいと思う。それは、教師の真の「活動」であり、「仕事」を超えた学び続ける姿でもあるからだ。

私のスマートフォンには何十枚か撮りためた新聞のショットメモがある。『魅力ある教師になってほしい』と題されたその記事は2019年6月18日の毎日新聞の投書欄を撮影したものである。埼玉県朝霞市の元小学校教諭志摩範夫さん（当時69）は「教師の背を見て子は育つ。明朗で、厳しく教え、優しく育てる。授業は、難しいことを易しく、易しいことを深く、深いことを面白く、と頑張ろう。褒めることは人を勇気づけ、可能性を伸ばす。魅力ある教師に。活躍を期待している。」と結んでいる。愛のある言葉だと思い、時々スクロールする。志摩さんは同欄の『勉強の楽しさを教えたい』という大学生の投稿を読み、うれしく思いこの記事を書いたということが付されている。私も今、同じような心境にある。

この3月ここ総合学校教育センターで定年を迎えるにあたり、子どもたちと先生方、この両方への思いが交互に去来し、今も募っている。

*ケン・ロビンソン：TEDカンファレンスでの2006年の講演「Do schools kill creativity? (学校は創造性を殺してしまっている?)」は世界で最も視聴されたTED Talkで、6000万超回再生され、160の国で推定4億人に視聴されている。2020年8月21日70歳で死去。

今年度のICTを活用した研修講座の紹介

令和3年度は、学校の新しい生活様式への移行及びGIGAスクール構想の実現を踏まえ、タブレット端末の活用、オンライン型、オンデマンド型等、ICTを活用した講義・演習等を取り入れた研修講座を実施しました。

■研修講座におけるタブレット端末、 授業支援ツールの活用

全157講座の内、65講座において

○タブレット端末

「Chromebook」、「iPad」、
「Windowsタブレット」

○授業支援ツール

Google Workspace … 62講座

ロイロノートSchool … 10講座

Microsoft Teams … 2講座

■ICTを活用した研修講座（一例）

『総合的な学習の時間研修講座』の演習・協議

※受講者全員にタブレット端末（Chromebook）を
配付し、授業支援ツール（Google Workspace）を
使用。

- ・Jamboardで思考ツール「ベン図」を使い、講話の内容について整理・分析する演習・協議を4～5人のグループで行いました。
- ・JamboardでKJ法的手法を使い、総合的な学習の時間における課題設定を協議する演習を、4～5名のグループで行いました。
- ・グループ協議の後に、端末と電子黒板を接続し、全体発表を通して協議した内容を共有しました。



研修講座の実績

●研修区分別修了者数

【基本研修】

・初任者研修（小、中、高、特） 計 873名

・新規採用教員研修（養護教諭、学校栄養職員、
事務職員、実習講師） 計 72名

・経験者研修（フォローアップ研修、中堅前期研修、
中堅後期研修等） 計 828名

【職務研修】

・職務研修Ⅰ（校長研修、教頭研修、他） 計 350名

・職務研修Ⅱ（進路指導担当者研修、他） 計 202名

【専門研修】

・教科研修 計 640名

・教科外研修 計 807名

今年度は、157講座を開催しました。これらの講座に対するアンケート集計の結果、「内容は分かりやすかったか」や「実践の参考になったか」について、5段階評価の最高評価「5」と回答した受講者は約8割おり、受講者にとって学びの多い研修講座を提供できたと考えております。

次年度は、GIGAスクール構想により、ICT活用指導力の向上を目指し、“タブレット端末を活用した”講義・演習等がある研修講座を、今年度以上に多数準備しております。皆様の受講をお待ちしております。

校内研修等講師派遣事業の実績

【派遣数】205件 【受講者数】約4,100名

御活用いただき、ありがとうございました。

■申込校種・機関別内訳

小学校	62件	中学校	27件
高等学校	75件	特別支援学校	12件
教育機関	15件	研究会・協議会	14件

■テーマ別内訳（依頼件数上位のもの）

授業力向上と授業改善	72件
授業におけるICT活用	55件
特別な配慮を必要とする児童生徒への支援	18件
不登校への対応	11件

今年度は「主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善」、「観点別学習状況の評価」、「ICTの効果的な活用」といった新学習指導要領への対応や、特別支援教育、教育相談に関する研修への派遣数が多くなりました。

また、感染症対策として、急遽、オンライン形式に切り替えての実施が約1割を占めました。このことを受けて

令和4年度は、申込みの段階で「オンライン形式」を選択できるようにいたします（一定の条件を満たした場合）。皆様からの御要望に応えられるよう準備を進めて参りますので、積極的に御活用ください。



来年度予定されている新規講座の紹介

D_22 読み書きに困難のある児童生徒への指導・支援研修講座

7月4日(月)

本講座では、講義・演習を通して、小・中学校等の通常の学級における、読み書きに困難のある児童生徒への指導・支援の基本的な考え方を学びます。そして、読み書きの困難さを補うタブレットPC等の活用方法について、基礎的な知識・技能を身に付けることを目指しています。

【講師】

学びプラネット合同会社 代表 平林 ルミ 氏

(東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター教育学研究員)

➤ 専門

特別支援教育、特に学習に困難のある人へのテクノロジーを用いた学習補償・環境調整、読み書き評価の開発、読み書きの指導法開発

➤ 資格

博士(学術)、言語聴覚士、公認心理師、臨床発達心理士、特別支援教育士スーパーバイザー (SENSE-SV)

D_28 はじめての Microsoft Teams

5月31日(火)

本講座では、はじめてMicrosoft Teamsを操作する方を対象に、OneNoteやFormsの基本操作とTeamsとの連携、チーム作成、ファイル共有等について演習を行い、基本的な知識と技術の習得を目指します。

なお、教科指導におけるICT活用について学びたい方は、C番台の教科教育に関する研修講座を御確認ください。



D_29・D_30 はじめての Google Workspace

【iPad編】

【Chromebook編】

9月5日(月)

両講座では、はじめてGoogle Workspaceを操作する方を対象に、Google Classroomなど特定のアプリに焦点を絞り、それぞれの基本操作について演習を行い、基本的な知識と技術の習得を目指します。各校の導入機器の状況に応じて、どちらかの講座を選択してください。

なお、はじめてChromebookを使用する方を対象に、「D27_ゼロから学ぶ！Chromebook初心者講座」を開講しておりますので、そちらに御参加ください。



掲載された新規講座を含むすべての研修講座の詳細については、3月17日付けで当センターホームページにアップいたしますので、そちらも御覧ください。



青森県総合学校教育センター
イメージキャラクター

アプセくん